

| | | | |
|-----------|------------|------|----|
| 講義名 | オ)児童心理学 | | |
| 担当教員 | 権藤 真織 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 1時限 | 授業形態 | 講義 |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

主題と概要

近年の生涯発達の見点から、我々は生まれてから死ぬまで、生涯にわたって発達、変化する。また、人生100年!ということばもあなたがたのお題目ではなく、100歳をこえた高齢者が8万人に達した。長寿者の研究から、豊かな高齢期を過ごすためには、子どもの頃の経験や環境の影響も少なくないとの報告もある。この長きにわたる生涯において、豊かにあわせて生きていくためにも、子ども時代を豊かに過ごすこと、しあわせに暮らせる環境を整えることは重要な課題であるといえる。児童期の子どもの発達の特徴、現状と課題について考察を深める。

到達目標

「発達」および発達を取り巻く関連の概念を理解できるようになる
「学習」および学習を取り巻く関連の概念を理解できるようになる
生涯発達における「児童期」の意義を理解できるようになる
心理学的知見を活用して、児童期の課題や諸問題に寄与するアイデアを考察できるようにする

提出課題

授業で活用するワークシートやForms?かGoogleFormsで、自分の学びについてコメントを提出する。
みんなからのコメントは、クラスでシェアして、クラスの意見からも学び合う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出物は、内容確認後、授業内で返却する。
また、学生の学習内容については、授業時にクラス全体にコメントする。

評価の基準

授業内課題 40%
中間レポート 30%
最終課題/試験 30%

履修にあたっての注意・一言他

今までのあなた自身の学びの成果や成長を振り返り、この授業で何を学びたいか、新しく何を身につけられたか、自己評価して、次につなげてほしいなと思っています。
授業では、児童期を取り扱うので、あなた自身の児童期についても思い起こしながら学びます。グループワークでは、子ども時代の経験など個人的なことにも言及することもあるかと思いますが、仲間同士気持ちよく語り合えればと思いますので、自分で話してもよいと思うことを選んで、話したくないと思うことは話す必要はありません。一人ひとり他者とシェアできる事情や範囲、程度が異なりますので、それぞれできる範囲で語り合います。

| | | | | | |
|-----|--|--|--|--|--|
| 教科書 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

プリント資料及び参考文献

テキストは使用しないが、ワークシートを活用するので、A4プリントをファイリングできるこの科目だけのファイルを用意してください。
ランニングボードフォリオを作成して、それをあなたのオリジナルテキストにしてください。
ワークシートは授業時に配布します。

授業計画

第1回 オリエンテーション：このクラスの学び方・私たちの学びの成果とこれから～
第2回 自己理解でチャレンジ1：2つの心理学＝心理学的人間理解とは？あざむい
第3回 心理学と児童心理学：研究ってなあに？子ども理解の方法
第4回 発達ってなあに？：私たちの暮らしの中の発達と心理学
第5回 児童期の暮らしと発達：発達課題
第6回 学習ってなあに？：私たちの暮らしの中の学習と心理学
第7回 児童期の暮らしと学習：基本的な生活習慣と学習習慣
第8回 演習：学習のプロセスを体験しよう＝上手に学習するには？～
（オンライン授業では、学習に関する事例検討を行う）
第9回 発達をつまづきと学習をつまづき～発達障がい・学習障害～
第10回 発達支援と学習支援～さまざまな支援と応用行動分析からの支援～
第11回 ホスターセッションの準備～話し合い～
（オンライン授業では、プレゼンテーション動画の作成準備）
第12回 ホスターセッションの準備～作成～
（オンライン授業では、プレゼンテーション動画の作成を行う）
第13回 ホスターセッション
（オンライン授業では、プレゼンテーション動画を配信する）
第14回 ホスターセッション振り返り
（オンライン授業では、プレゼンテーション動画の振り返りを行う）
第15回 まとめ：児童を理解するってどういうこと？

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習） | <input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| <input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート | <input type="checkbox"/> エ：グループワーク |
| <input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション | <input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク |
| <input type="checkbox"/> キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

ロールプレイ演習・事例検討

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回の授業に関連するキーワードやトピックを紹介するので、そのことについて調べたり、自分のアイデアをまとめておく。
授業後は、講義で得た新しい知見や仲間との語り合いからの自分の学びの成果を振り返り、まとめておく。
予習・復習は、だいたい合計2時間程度が目安。今回の授業までの1週間の期間を有効に活用してくださいね。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

DP1：目標の から を達成することで、共通DPの第一項目に貢献できる。
DP2：目標の および を達成することで、共通DPの第二項目に貢献できる。
DP3：目標の および を達成することで、心理コースのDP第一項目に貢献できる。
DP4：目標の および を達成することで、心理コースのDP第二項目に貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面授業ならびにオンライン授業では、授業に関連するテーマについて、アンケート形式のワークでコメントを行い、それをクラスでシェアする。マイクロソフトFormsあるいはGoogleFormを使用する。

実務経験の有無及び活用

保育所勤務：児童期の前段階である乳幼児の発達について、その仕組みや事例を紹介する。
障害児保育：児童期の発達をつまづきやその支援について紹介する。

備考